

株式会社 KATAOKA

千葉県千葉市若葉区大宮台 3-9-9

業 務 内 容

- ◆外構工事 ◆カーポート ◆塗装工事
- ◆水道・トイレ ◆内装工事



Works by
KATAOKA

お客様のための施工に一意専心—— 満足と喜びを引き出す外構工事を手掛ける

創業から5年——千葉県を拠点に、外構工事を軸にリフォーム全般を手掛ける『KATAOKA』。10代半ばからこの道一筋に経験を積んできた片岡社長が、住宅周りの目隠しフェンス工事や駐車場、門扉、カーポート、ウッドデッキなどの工事の要望に対応する。2021年5月には法人化を遂げ、成長一途を辿る。本日は元WBA世界ミドル級チャンピオンの竹原慎二氏が同社を訪問し、社長にお話を伺った。

——早速ですが、片岡社長は職人の世界を歩まれて、もう長いのですか。

勉強が好きではなかったものから（笑）、15歳で社会に出ました。私の父が外構工事を手掛ける会社を営んでおり、私もこの世界を選びました。当時はまだ、父の後を継ぎたいとか、同じ仕事に携わりたいたとか、立派な動機があったわけではありませんでしたが、社会に出たばかりで何の経験もない10代半ばの若造ですから、就職は決して簡単ではありません。それで、父の会社に入社したんです。

——しかし、それ以降、この業界一筋に歩んでこられたということは、社長に適性があったということに他なりません。

ただ、10代半ばのころは、この仕事の面白みもやり甲斐もまだ見出だせず、決して好きな仕事とは言えませんでした。

た。それでも、途中で辞めるのはみっともない——その一心だったんです。そのうちに仕事を覚え、現場を任せられるようになっていきました。そして、23歳の時に、父のもとを離れて独立を果たしたんです。

——23歳ですか。15歳から修業を始められたので、その時点で8年間のキャリアがあたりだったわけですし、独立後について自信もあったのでしょうか。

そうですね。18歳で結婚して家庭を持ったのですが、私は一度こうと決めたら曲げない性格なので、妻も特に反対することなくついてきてくれました。独立すると同時に自宅も建て、後戻りできない状況に自分を追い込んだことも良かったのかもしれない。

——いざ独立されてみて、幸先は順調に

いきましたか。

ええ。独立から約5年経ちますが、お陰様で当初から途切れることなくお仕事をいただいています。売上も創業時の約4倍にまで伸びました。2021年5月には法人化も遂げることができ、また心機一転、大きな一歩を踏み出したばかりなんです。

——それは、おめでとうございます。同じ業界で、同じ経営者という土俵に立ったことを、お父様も誇りに思っているんじゃないでしょうか。

親子で仕事をするのは難しいと言うように、父と私も一緒に仕事をしていたころは喧嘩も多かったのですが（笑）、今は良い関係を築くことができている、逆に私が手伝いに行ったりすることもあるんです。父は、自分の会社を残す必要はないと言っているの、父が第一線を退く時には当社に吸収して、私が事業を続けていく考えです。

——それも、同じ事業を手掛けておられるからこそできることですね。現在も『KATAOKA』さんは外構工事を軸に据えておられるのでしょうか。

はい。一口に外構工事と言っても様々な工事があります。当社は住宅周りの目隠しフェンス工事や駐車場のコンクリート工事、ブロック工事、門扉、カーポート、ウッドデッキなどの外構工事を軸に、リフォームのご要望にも幅広くお応えしています。その分だけ、幅広い知識と経験が必要で、人材の層を厚くするためにも若い職人の育成が急務ですね。1年ほど前に若い職人が入ってきてくれて、現在は25歳。ブロック工場のノウハウを

習得中で、今後期待しています。

——職人の高齢化が進んでいるようだし、若手の育成は業界全体が願うところでしょうね。社長ご自身もお若いですし、貴重な存在だと思います。

おっしゃる通り、職人の平均年齢が上がっています。ベテラン職人の方々に比べれば若手は経験不足ですが、これから10年、20年経った時には、私世代の職人が業界を支えているはずだと自負しています。

——今後、この業界の将来を支えていけるのは社長たちお若い世代だと私も思います。今後への意気込みも伺いましたが、社長がお仕事の上で大事にされていることは何ですか。

「お客様のために」という思いで施工することです。例えば、図面通りでは仕上がりに難があると感じた時には、すぐにお客様に確認するようにしています。仕上がった時にお客様が違和感を感じられるようでは遅いですし、お客様がっかりさせたくありません。図面通りだからと問題点に気づいた時点で放置することなくご相談し、ご満足いただける形に仕上がるよう常に意識しています。

——こちらは素人ですから、プロである職人さんから提案していただけるのは、非常にありがたいです。

外構は、家の顔になる部分です。だからこそ、外構工事を託されたことに大きなプレッシャーを感じます。一方で、まさる状態から作り上げていくので、完成時には言葉にできない達成感があります。仕上がりを見たお客様が喜んでくださると、それ以上の報酬はありません。

——社長は、ご自身のお仕事に誇りを



代表取締役
片岡 健

持っておられますね。今後については、どのようにお考えですか。

現在はハウスメーカーから依頼される仕事を中心ですが、今後は個人のお客様も獲得していきたい。ホームページを立ち上げ、建設業許可の取得、公共工事への参入も目標に掲げています。重機や道具類を保管するための場所も手狭になってきたので規模を拡大したいですし、事務所も構えたく、攻めの姿勢で成長を目指したいです。

(2021年12月取材)

interviewer: 竹原 慎二 (元 WBA 世界ミドル級チャンピオン)



「外構工事の分野は、若い担い手が少ないとおっしゃる片岡社長。住宅がある限り必要となるお仕事ですから、今後、若い担い手が業界に入ってくるといいですね。ご自身もまだ20代とお若い社長の姿を見て、外構工事に魅力を感じる若者もきっと出てくるはず。この誌面を通して、若い世代の奮闘をぜひ多くの方に知っていただきたいです。ご活躍を応援しています！」 竹原 慎二・談

お客様に喜ばれ、自分も成長できる

▼「私たちがすれば、どの現場も数多く手掛ける現場の一つです。でも、お客様にとっては、マイホームは一生に一度の大きな買い物。その外構をお任せくださる期待に応えたい」——そう話した片岡社長。一つひとつの現場を大切に、決して手を抜くことなく全力を尽くす。「若い職人たちにも同じ気持ちで現場に立ってほしい」と願っている。その背景にあるのは、お客様への想いだ。『KATAOKA』にならと外構を託したお客様に、「期待以上だった」と喜ばれる仕上がりを実現したいという信念が、ブレることは決してない。

▼若手人材の不足が顕著な建設業界の中でも、特に外構工事は若い担い手が少ない。言わずもがな、今後は人材の確保と育成が課題だ。外構工事の魅力について、社長はこう話す。「現場には一つとして同じものではなく、毎回、お客様の笑顔は何物にも代えがたい。お客様に喜ばれるために技術を磨き、自分自身の成長も実感できるやり甲斐のある仕事です」。社長は、「やる気さえあれば、本人の性格や個性に合わせて丁寧な指導したい」と人材育成にも意欲的。ぜひ、社長のもとで外構工事を学んでもらいたい。